

看取りの文化をつなぐには

角田とよ子 会社員

病院でコロナに感染し誰にも看取られずに旅立った父

「お母さんが見える」の不思議と、最後の電話に出られなかった後悔

講義をオンラインで視聴させていただきました。看取りの文化を着実につなげていらして、感動しております。

私の父のことを聴いていただけたら嬉しいなと思ひまして、レポートでお伝えさせていただきます。

私の母は 5 年くらい施設でお世話になり、10 年前に施設で自然な形で看取っていただきました。母が亡くなった後も、父は 96 歳まで一人暮らしをしていました。

その父が、2024 年 1 月 28 日に、97 歳(入院中に誕生日が来ました)でコロナを死因として亡くなりました。元日には子ども、孫、ひ孫を自宅に招いて盛大に新年会をしたのですが、張り切りすぎて胸椎圧迫骨折が悪化してしまい、6 日に入院。痛みが引いてくると「病院の看護師より家に来てくれる看護師のほうがいい。来週には退院させてくれ」と電話をしてきまして、病院の MSW やケアマネと相談して退院の手配をしました。しかし痛みがぶり返してしまい、父が退院延期を決めました。入院後すぐに面会の予約をして、19 日に 15 分だけ私と弟が面会できました。父は弟が持ってきた本の中から 4 冊を選び、確定申告の書類の指示をするほど元気でした。31 日の次回面会までには退院できるかなと思っていたのですが、25 日に病院からコロナ陽性の連絡が来て、28 日に緊急面会をと言われて駆けつけましたが、間に合いませんでした。父は、よくしてくださった病院関係者も含めて、誰にも看取られずに旅立ってしまいました。

父は 2022 年 6 月から、訪問介護と訪問看護サービスを受けていました。ケアマネジャーさんのことを娘と呼び、訪問薬剤師さんを含めてたくさんの女性に色々なことを褒められてとてもうれしそうでした。病院の訪問看護ステーションから派遣されてきていた看護師さんが、「病院の方針で、在宅の利用者さんへの訪問看護はやめることになりました。それでは利用者さんが困ってしまうので、私が起業して、これまで通り訪問看護を続けますから安心してください。」と言ってくださり、父は、起業に関する書類の準備等を手伝いました。要介護 2 で、お風呂に入る時間に看護師さんにいていただくという使い方でしたが、看護師さんが来てくださるようになってから父は「ストレスが無くなった」と言っていました。本当に皆さん明るくて気持ちが良い方々で、私もお会いするのがとても楽しみでした。

皆さんが父の突然の訃報に驚いて自宅に駆けつけて下さり、「退院されるのを楽しみにし

ていました。これからも色々教えていただきたかったです。」と涙を流してくださいました。放課後にアッキー・秋山さんとお話しできたらよかったなと思います。

以前、乃木坂スクールの後、青山1丁目の居酒屋さんで「家で看取りをしないのはもったいない」という言葉を秋山さんからお聞きしたような記憶がございます。母のときにはできなかったで、父は訪問診療や訪問看護、訪問介護、親せきや近所の皆さんの力を借りて、できるだけ自宅で過ごさせてあげたいと思っていました。父は家が大好きで趣味も多く、「したいことがありすぎて、時間が足りない」が口癖でした。それが、まさかコロナでと無念でたまりません。

もう一つ、父の死に関して後悔していることがあります。父は24日の朝5時前に、病室を出て電話ができる場所から私に電話をしてきました。「お母さんがベッドに寝ている」と言うのです。「本当にいるか見てきて」と言うと、しばらくしてから「まだいる」。「お母さん、お父さんを心配して来たんだね。大丈夫だからって言ってあげて」と言うと「俺は大丈夫だから、安心してあの世に行ってくれ」と3回くらいそのセリフを繰り返し電話を切りました。そして翌日25日の朝も、私に電話をしてきたのです。しかし、私はその日大きなイベントがあり朝からバタバタしていて、自分のスマホを見るゆとりがありませんでした。それに、スマホを寝室ではなく1階のリビングに置いて寝てしまったのです。夕方イベントが終わりスマホをチェックしたら父がコロナ陽性の連絡が来ていました。

父からの着信履歴があり電話をしましたが、二度と通じませんでした。遺品となった父の携帯電話の発信履歴の最後は、「とよ子」でした。電話に出られなくてごめんなさい。母のことについて、父はどんな報告をしてくれたかしらと今でも気になっています。

死を前にして、家族が迎えに来るという話を聞くことがありましたが、実際に父にも起きたと不思議です。

たくさんの皆さんの看取りを経験された秋山さんにお伺いしたいと思いました。

「あなたのおみとり」。村上監督とは数年前から親しくさせていただき、ポレポレ東中野で鑑賞しました。村上監督は、「秋山さんに4回も舞台挨拶をご一緒していただいた」と感謝されていました。映画の細部まで深くご覧くださり、ものを観る目が違うと感服されたそうです。講義の中で映画をご紹介くださったことを伝えたと、とても光栄だと喜んでいました。

秋山さんの周りにはたくさんの人々がつどい、穏やかな時間が流れている気がします。これからお身体にお気を付けて、益々その輪を広げていってください。